



# 仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の元気な情報を掲載！～

Vol. 3

平成 23 年 5 月 30 日

【発行】

宮城県仙台地方振興事務所

## (1) 塩竈の寿司店が営業を再開！

～塩竈の寿司、ここにありと言えるように～

塩竈市の海岸通に位置する寿司店「鮨しらはた」が営業を再開したのは、4月29日のことでした。

震災の当日、お店のカウンターには3人のお客様がいました。東京からの観光客で、その日は秋保温泉に宿泊する予定だったといいます。店の1階部分が津波に飲み込まれ、全員が2階に避難しました。公共交通機関がストップしたほか、道路を通行できる状況ではなかったため、3日間を共に過ごしました。

その後、営業再開に向け、若いスタッフを中心に毎日泥かきをしましたが、汚泥の臭いを消すのは困難でした。懇意にしているお茶屋さんが届けてくれた番茶を使って、除臭に努めました。「明日から営業できる」という確信が持てたのは、開店前日の午後10時半を過ぎた頃でした。



5月9日から、石巻の船が塩釜港に入港するようになり、寿司として提供できる魚の種類も徐々に増えてきました。しかし、客足は鈍くゴールデンウィークでもお客様の数は例年の3分の1ほどでした。親方は「それでも来てくれる常連客はいる。塩釜の寿司ここにありと言えるように、頑張っていきたい」と前向きな姿勢を見せてくれました。

## (2) 津波被害を免れた生産者が「仙台いちご」の出荷に励んでいます！

宮城県内のいちご生産量の8割を占める亶理山元地域は、東日本大震災により、94%のいちご施設が壊滅的な被害を受け、380名の生産者のうち356名がいちごの出荷を断念せざるを得ない状況となりました。

現在は、津波の被害を免れた亶理町逢隈地区を中心とする生産者24名がいちごの生産を継続しています。JAみやぎ亶理逢隈支所いちご部会長の三品良一さんは、今回の津波により水田が被



害を受けましたが、いちごの施設に被害はなく出荷を継続しています。三品さんは「逢隈地区の約半数が津波の被害を受け、一時は部会全体が沈んだ雰囲気となっていたが、現在は津波の被害を受けた仲間の再建を手伝うまでになった」、「亶理山元地域の仙台いちごの復興のためには、津波の被害を免れた生産者が頑張り、産地全体を活気づける必要があると感じている」と話されていました。

## (3) 宮城県を元気に・・岩沼のカーネーションをイベントでプレゼント！

3月11日の大震災で名取市小塚原地区のカーネーションは甚大な被害を受けました。東部道路より西側の名取市高柳地区、岩沼市、亶理町のカーネーションは被害が少なく、停電や重油調達に苦慮しましたが、どうにか乗り越え、出荷を継続してきました。

ところが、仙台市場における震災後の花き単価は安値が続き、3月の売上が平年に比べ100万円以上ダウンした生産者もあり、がっくり肩を落としています。



このような状況の中、5月22日、観光PRイベント「東北うまいものフェア」が仙台駅で開催され、仙台駅を利用するお客さまに岩沼市の斉藤園芸のカーネーションが配られました。斉藤園芸のカーネーションハウスは、岩沼市の西側に位置し津波被害はありませんでしたが、地震直後からの停電により温室の天窓が開いたままの状態になりました。雪の舞い散る中、カーネーションが凍らないよう、発電機を調達し天窓を閉め、2重カーテンで保温するなど緊急措置に迫られました。斉藤園芸の斉藤富男さんは、「宮城県の方々が一日でも早く元気を取り戻し、生活の中に花を取り入れる暮らしができるよう願い今回のイベント用の花束を作りました」、「花は心のビタミンのようなもの。今後も宮城県が元気になる取り組みに協力していきたい」と話してくれました。

## (4) 関係機関が連携して、農地の堆積土砂をサンプリング

東日本大震災により、多くの農地が津波の被害を受けました。

県は、津波により、土砂が堆積している農地も多いことや堆積物には硫化物等の混入も考えられることから、東北大学の協力を得て、県内の津波被害を受けたエリア



全域の土壌サンプリングと土砂等の堆積状況の調査を行うこととしました。

亙理農業改良普及センター管内では、5月16日から18日までの3日間に209カ所、仙台農業改良普及センター管内では19日に75カ所で、関係機関の協力を得ながら、サンプリングと土砂の堆積状況等の調査を行いました。

サンプリングした土壌は、現在、農業・園芸総合研究所、古川農業試験場で、pH、電気伝導度(EC)のほか、重金属等の項目について分析を進めているところです。

県では、今回調査した土砂の堆積状況や化学分析の結果をもとに、農地の復旧、農業・農村の復興に向けて取り組んでいきます。

### (5) 漁業者グループが漂流物・ガレキの回収を行っています！

沿岸の漁場ではノリ、カキ、ワカメ、コンブ等の養殖が盛んに行われていましたが、大震災により養殖施設が流出し、大・小の塊となったり、陸上からのガレキが散乱したり、漁場は全く使用出来ない状態になりました。

このため県漁協、塩釜市漁協では、5月1日から多くの漁業者等が参加し、水産庁の基金事業により漁場のガレキ撤去を実施しました。撤去作業は24日に終了しましたが、25日からは国の一次補正予算を活用した県補助事業が開始されました。



各浜には次々とガレキが回収され、少しずつ漁場はきれいになってきています。

これからのカキの採苗や本養殖、秋からのノリの養殖、そして鮭漁等に間に合うよう漁場のガレキ撤去を進めていきます。

### ★トピックス

#### ～大津波に堪え忍んだマツたち～

管内には七ヶ浜町菖蒲田浜から山元町磯浜の県境に至る総延長60kmに及ぶ海岸線を有し、白砂青松の美しい砂浜がありましたが、未曾有の大津波は海岸マツ林をことごとく薙ぎ倒し、無残な爪痕を残すだけと

なっていました。

このような壊滅的なダメージを受けた中であって、計り知れないエネルギーと真っ向から立ち向かい、その力に耐え抜いたマツが点在しています。一際凛



としたその姿には、自然の脅威に幾度となく苛まれた過去の歴史や苦しみに耐え抜いた人々の生き様が浮かぶとともに、復旧・復興に向けた希望の道標にも見えます。

白砂青松を再生する道のりは長く陰しいものかもしれませんが、必ずや、砂浜に打ち返す潮騒とマツ林を吹き抜ける爽やかな海風を体感できる日がやって来ることを、願って止みません！【写真:七ヶ浜町菖蒲田浜】

### イベント情報

#### ■ハナトピア岩沼ばらまつり (岩沼市)

開催日：5月28日～6月19日

時間：午前10～午後5時

場所：岩沼市ハナトピア岩沼

電話：0223-23-4787

#### ■仙山交流味祭 in せんだい 復興市 (仙台市)

開催日：5月31日～6月1日

時間：午前10～午後4時

場所：勾当台公園市民広場

電話：022-275-9114

### イベント・フォローアップ

岩沼市の金蛇水神社では、5月10日から25日にかけて毎年恒例の「花まつり」が、5月15日から21日にかけて「例大祭」が行われました。

本年の例大祭は震災復興祈願祭として行われ、牡丹園の入園料や臨時バスを無料にするなど、格別の配慮があり、1日でも早い復興を願う多くの参拝客が訪れました。

★ 仙台・宮城元気ニュースは、宮城県の復興を目指す皆さまに少しでも元気になっていただけるよう、仙台地域の明るい話題や元気な人の情報を発信していきます。読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております。

お問い合わせ先

宮城県仙台地方振興事務所

地方振興部 (担当：鈴木、高橋)

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/>

(E-Mail) [sdsinbk2@pref.miyagi.jp](mailto:sdsinbk2@pref.miyagi.jp)

(TEL) 022-275-9140